

短期資産の資産管理機関の選定結果

区 分	報 告	対象範囲	短期資産
エグゼクティブサマリー 平成30年1月に公募を実施した短期資産の資産管理機関として、資産管理サービス信託銀行（T C S B）および日本マスタートラスト信託銀行（M T B J）の2社を選定した。			
バックグラウンド 次の趣旨で公募を実施。 ・効率的な短期資産の運用方法（運用商品・運用スキーム）の提案を広く求めることにより、公的年金の利益を最大限維持する。 ・資産管理機 軽減する。		フィードバック期間及び検証方法 年度の総合評価を実施することで、少なくとも毎年度 1 回検証	
		便益及びリスク 【便益】 短期資産運用の高度化、資産管理業務の安定的な継続 【リスク】---	
戦略プラン ・短期資産の契約交渉時に、解約通知日を長くするようなどにより、継続性を確保する。		KPI ---	
		その他 ---	

短期資産の資産管理機関 の選定結果

年金積立金管理運用独立行政法人



審査の経過

- 応募のあった3社()について、1次審査(書類審査)を実施し、いずれも通過。
- 3社に対して2次審査(ヒアリング)を実施。「組織・人材」「業務体制」「内部統制」「資産管理システム」「情報提供等」及び「情報セキュリティ対策」の各評価項目について評点を付した。結果、いずれも通過。
- 3社に対して、以下の公募の趣旨を踏まえつつ、3次審査(現地実査等)を実施。
 - ① 効率的な短期資産の運用方法(運用商品、運用スキーム)の提案を広く求めることにより、公的年金の利益を最大限に維持する観点
 - ② を軽減する観点



- 提案は、マイナス金利下での経営悪化を回避しつつ、できるだけ公的年金の短期資産の運用においてマイナス運用とならないよう工夫され、信託手数料も最低限に抑制されており、通過。
- 提案は、新たに短期資産の管理を行うために必要な設備投資を行いながら、マイナス金利下での経営悪化を回避し、できるだけマイナス運用とならないよう工夫されており、通過。
- は、短期資産の資産管理能力に問題があり、業務実施に懸念があることから、不通過。

短期資産の提案内容

受託可能額			
スキーム			
商品			
開発期間			
信託報酬			

短期資産の資産管理機関の選定までの流れ

